



はな アブラナの花はどうしてたがいちがいについているの

はな しょくぶつ しゅるい き 花のつきかたは、植物の種類で決まっている

はな は へんか は した うえ で まい は は
花は葉が変化してできたものです。葉は下から上へ出ていきます。そのうち4枚の葉と葉
あだ つぎ まい はな つぎ か
の間がぐんとつまって「がく」になり、次の4枚が花びら、次がおしべというように、変わ
っていったのです。そして、がくと花びら、花びらとおしべは、たがいに重ならないように
なつたのです。ほとんどの花は、みなこうなっています。

はな 花のつきかた

はな えださき りん おお はな あつ
花は枝先に1輪ずつさくものもありますが、多くはいくつかの花が集まってつきます。こ
のような花のつきかたを、花序といいます。花序は、無限花序と有限花序の二つのにグルー
プに大きく分けられます。

むげんかじょ せいちよう つづ おお はな
無限花序とは、成長が続くかぎり、いくらでも多くの花がつけられるタイプのものです。
あブラナで観察してみましょう。はな じく はな うえ ほう せんたんぶぶん
花の軸につく花は、上の方ほどつまっています。先端部分
ちい はなめ かさ はなめ つく
では、小さな花芽がびっしり重なりあうようについています。花芽が、どんどん作られてい
るのです。はなめ した ほう せいじゅく はな さ うえ ほう さ
花芽は、下の方から成熟して花を咲かせ、上の方へ咲きのぼっていきます。
ゆうげんかじょ きやく はな うえ ほう さ した さ すす
有限花序はこれとは逆で、花の上の方から咲き、下へ咲き進むタイプのものです。

たいよう わ あ 太陽を分け合うならびかた

は しょくぶつ き で せい
葉のならびかたにも、植物ごとに決まりがあります。むらがり出る「そう生」、たがいち
で ごせい む あ で たいせい
がいに出る「互生」、向かい合っ出て出る「対生」などがあります。

うえ は した は たいよう
どのならびかたでも、上の葉は、下の葉を太陽からできるだけかくさないようにならんで
います。花のならびかたにも同じことがいえます。(監修・中山 周平)

